

【2025年卒 就職活動TOPIC】

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加状況（3月時点）

※2025年4月24日追記 10ページの表記および数値に誤りがありましたため、訂正いたしました。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加割合は84.7% 参加件数全体のうち「半日」と「1日」のプログラムが87.1%を占める

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）のより良い就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

学生がプログラムに参加した時期は、卒業年次前年「8月」「9月」の割合が5～6割程度と高い



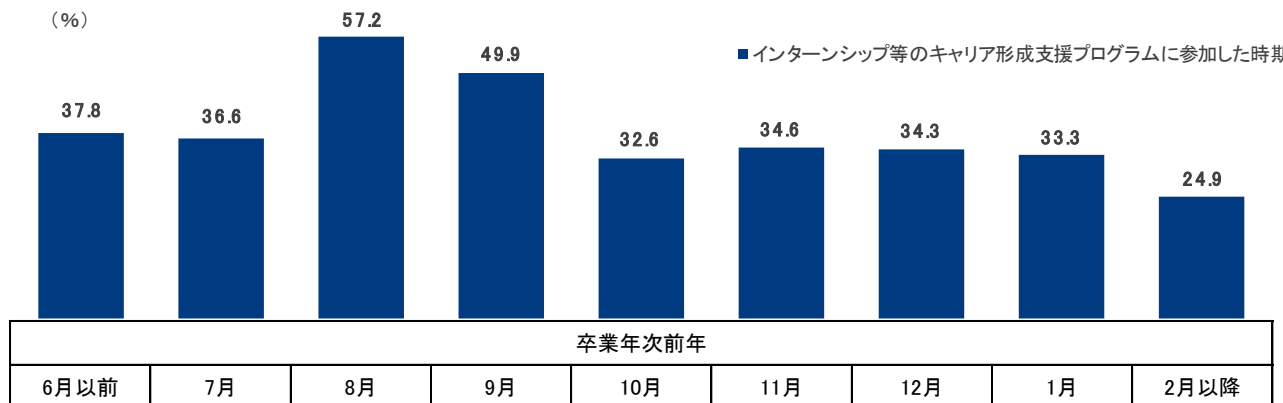
所長 栗田 貴祥

今回の調査では2025年卒学生のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加状況について調査しました。回答者のうち、3月時点でプログラムに参加した学生の割合は84.7%、平均参加社数は8.72社でした。参加件数全体におけるプログラム期間の割合は「1日以下」が87.1%と大半を占めました。プログラムに参加した時期を聞いたところ、全体では卒業年次前年「8月」「9月」の割合が5～6割程度と高く、「7月」「10月」「11月」「12月」「1月」も3割以上の学生が参加しています。一方で5日以上プログラムに参加した時期に絞って見ると、「8月」と「9月」に集中しています。プログラムの参加時期別の参加目的を見ると、プログラム参加時期にかかわらず、上位2項目は「業種理解」「仕事理解」といずれも7割程度で、広く仕事について理解することが主な目的であることが分かります。また「2023年9月以前」と比べ、「企業・各種団体等の事業内容理解」「企業・各種団体等の職場の雰囲気を知る」の2項目で「2023年10月以降」の方が特に割合が高く、個別企業の理解を進めようとする学生が多い様子が見えます。2026年卒の学生の皆さんは、自身の就職活動準備状況を踏まえ、参加を希望する時期や目的に応じて、インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムをどのように活用するか、検討する際の参考にいただければと思います。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加時期

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／複数回答）



本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

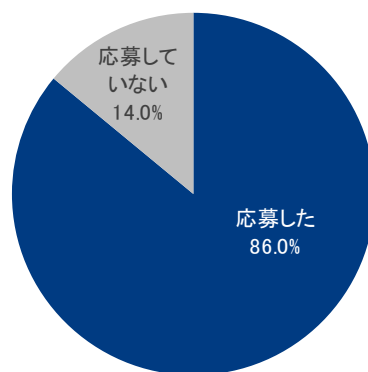
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに応募・参加した学生は8割以上

・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに応募した学生は、就職志望者かつ就職活動経験者全体のうち86.0%であった。また、インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した学生は84.7%であった。

・応募した学生のほとんどが、インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加している様子がうかがえる。

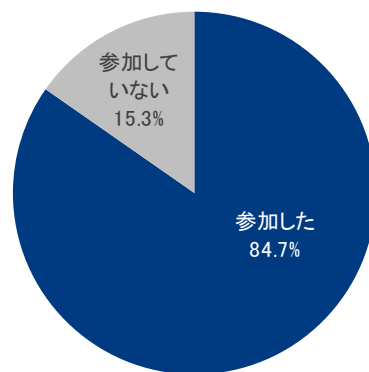
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの応募割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／単一回答）



インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／単一回答）



※「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの平均参加社数は8.72社

- ・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの平均応募社数は12.40社、平均参加社数は8.72社。
- ・プログラム期間別の参加状況を見ると、「半日」の割合が最も高く68.2%、次いで「1日」が56.3%だった。
- ・また、平均参加件数をプログラム期間別に見ると、「半日」が最も多く7.40件、「5日以上～2週間未満」が最も少なく1.31件だった。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの応募・参加状況

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／数値回答）

	n数	経験割合(%)	平均数(社)
応募	587	86.0	12.40
参加	587	84.7	8.72

※平均社数の集計対象は、1社以上応募した学生（応募平均数）
および1社以上参加した学生（参加平均数）

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへのプログラム期間別参加状況

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／数値回答）

	経験割合(%)	平均数(件)
半日	68.2	7.40
1日	56.3	4.10
2日以上～5日未満	38.1	2.11
5日以上～2週間未満	16.0	1.31
2週間以上	4.6	1.55

※平均件数の集計対象は、1件以上参加した学生

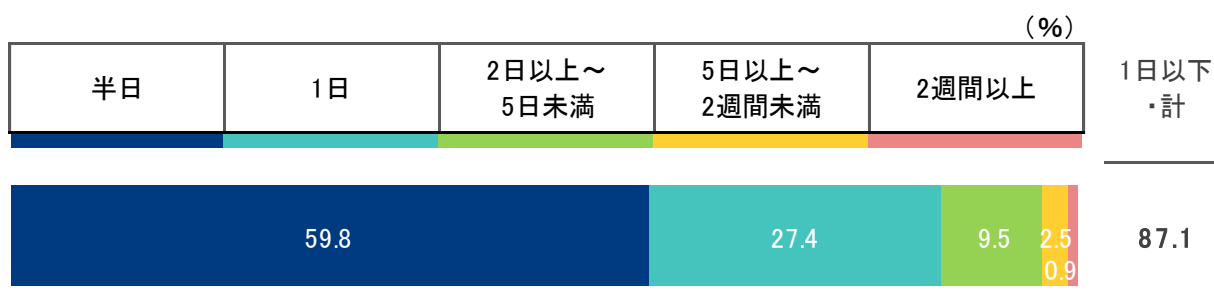
※「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

参加件数全体における「1日以下」の割合は約9割と大半を占める

- ・ インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加件数全体のうち、「1日以下」が87.1%だった。
- ・ 参加したインターンシップ等のキャリア形成支援プログラム件数全体のうち就業体験が含まれていた割合は、「5日以上～2週間未満」と「2週間以上」が5割以上で、「1日」では約3割、「半日」では約2割だった。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム 参加件数全体におけるプログラム期間の割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／数値回答）



インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム 参加件数全体のうち就業体験が含まれていた割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／数値回答）

(%)

半日	1日	2日以上～ 5日未満	5日以上～ 2週間未満	2週間以上	1日以下
21.1	30.1	40.2	64.2	54.6	23.9

※「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

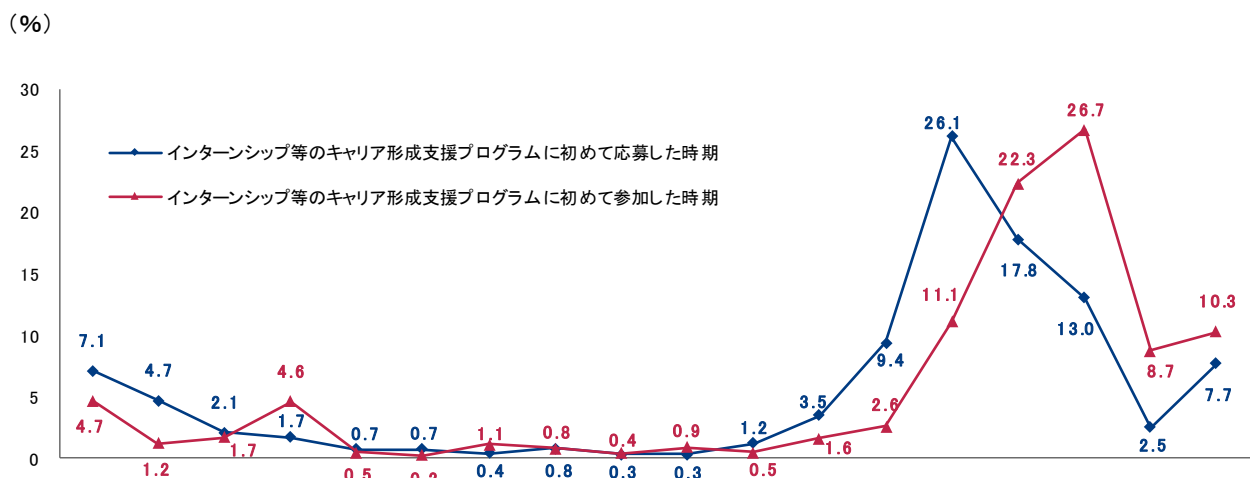
初めて応募した時期は卒業年次前年6月、初めて参加した時期は8月の割合が最も高い

- ・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに初めて応募した時期は卒業年次前年の6月が最も高く、次いで卒業年次前年の7月が高かった。
- ・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに初めて参加した時期は卒業年次前年の8月が最も高く、次いで卒業年次前年の7月が高かった。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに初めて応募した時期・初めて参加した時期

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム応募者および参加者／単一回答）



	卒業年次前々年												卒業年次前年					
	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに初めて応募した時期	7.1%	4.7%	2.1%	1.7%	0.7%	0.7%	0.4%	0.8%	0.3%	0.3%	1.2%	3.5%	9.4%	26.1%	17.8%	13.0%	2.5%	7.7%
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに初めて参加した時期	4.7%	1.2%	1.7%	4.6%	0.5%	0.2%	1.1%	0.8%	0.4%	0.9%	0.5%	1.6%	2.6%	11.1%	22.3%	26.7%	8.7%	10.3%

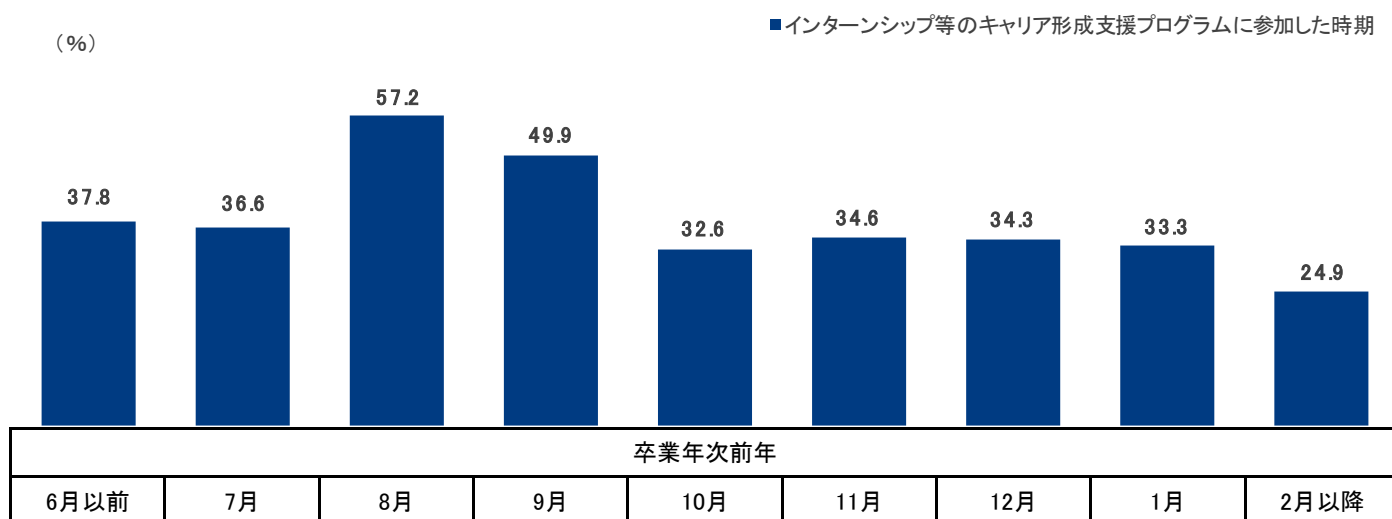
※「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

プログラムに参加した時期は卒業年次前年「8月」「9月」の割合が5～6割程度と高い

- ・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した時期を聞いたところ、全体では卒業年次前年「8月」の割合が57.2%と最も高く、卒業年次前年「9月」が49.9%と2番目に高かった。「7月」「10月」「11月」「12月」「1月」についても、3割以上の学生が参加したと回答した。
- ・一方で、5日以上プログラムに参加した時期に絞って見ると、卒業年次前年「8月」の割合が40.4%と最も高く、卒業年次前年「9月」が37.5%と2番目に高かった。全体の参加時期と比較すると、5日以上プログラムは「8月」「9月」に参加が集中している様子が見える。

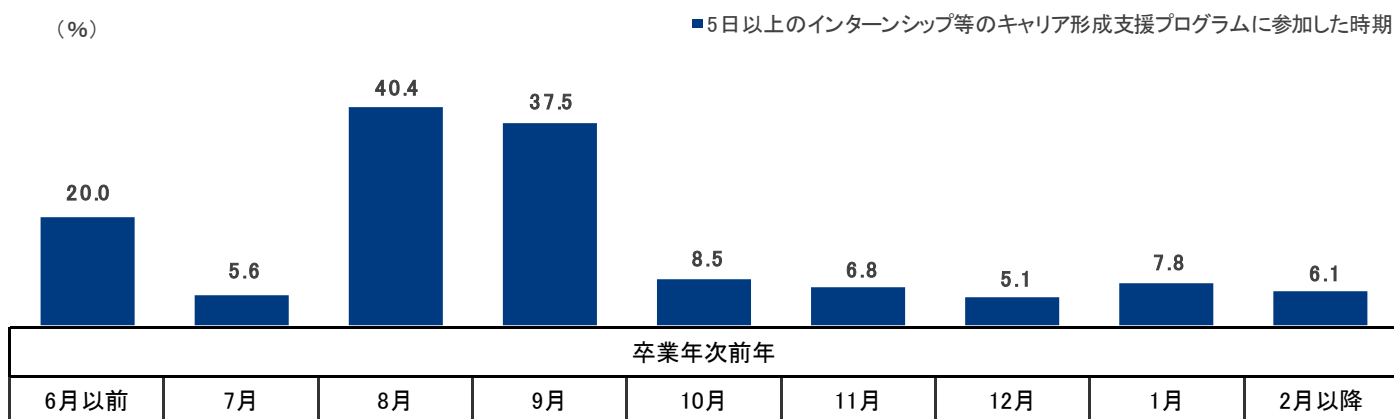
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加時期（再掲）

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／複数回答）



5日以上インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加時期

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
5日以上インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／複数回答）



※「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

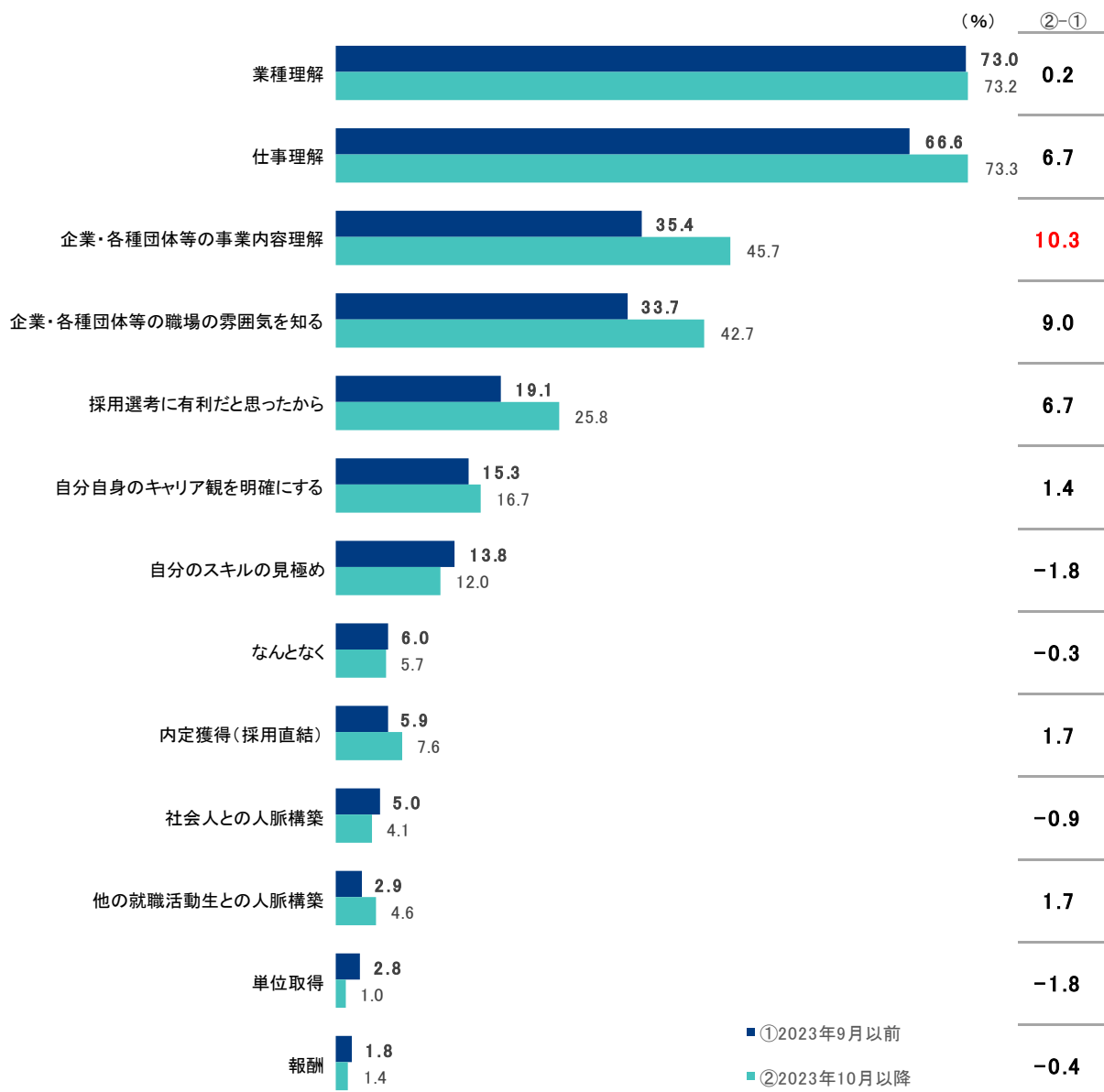
プログラムの参加目的は「業種理解」「仕事理解」が参加時期にかかわらず7割程度

・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加時期別の参加目的を聞いたところ、「業種理解」「仕事理解」は参加時期にかかわらず、いずれも7割程度であった。

・また「2023年9月以前」と比べ、「企業・各種団体等の事業内容理解」「企業・各種団体等の職場の雰囲気を知る」の2項目で「2023年10月以降」の方が特に割合が高かった。

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加時期別の参加目的

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加企業について最大5社分をそれぞれ複数回答で聴取したものを合計）



※「その他」「特に意識していた目的はなかった」を除く

※10ポイント以上の差を赤字で表記

※「2023年9月以前」の数値の大きい順に掲載

※集計軸（インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加時期）は、インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの参加企業について最大5社分をそれぞれ複数回答で聴取したものを合計

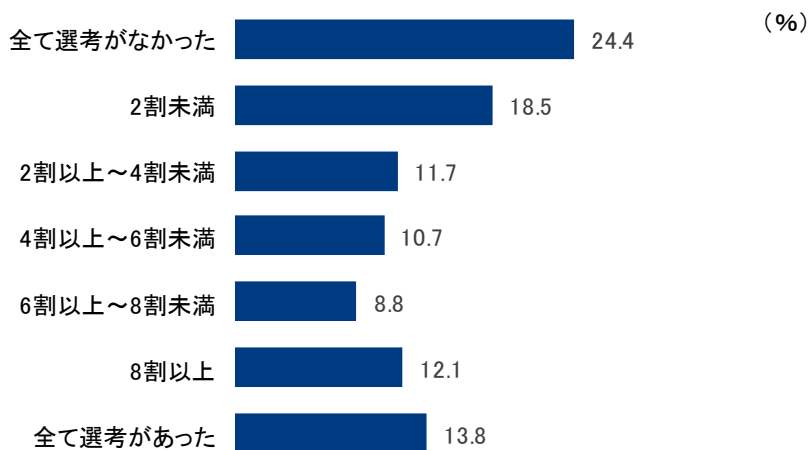
プログラム全体では「全て選考がなかった」の割合が最も高く、5日以上のプログラムでは「全て選考があった」が最も高い

・応募したインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムのうち、プログラム参加に当たり選考があった割合をプログラム参加者に聞いたところ、全体では「全て選考がなかった」が24.4%だった。一方で、「全て選考があった」は13.8%だった。

・一方で、応募したプログラムを5日以上に絞って見ると、プログラム参加に当たり選考があった割合は「全て選考があった」の割合が最も高く、60.3%だった。

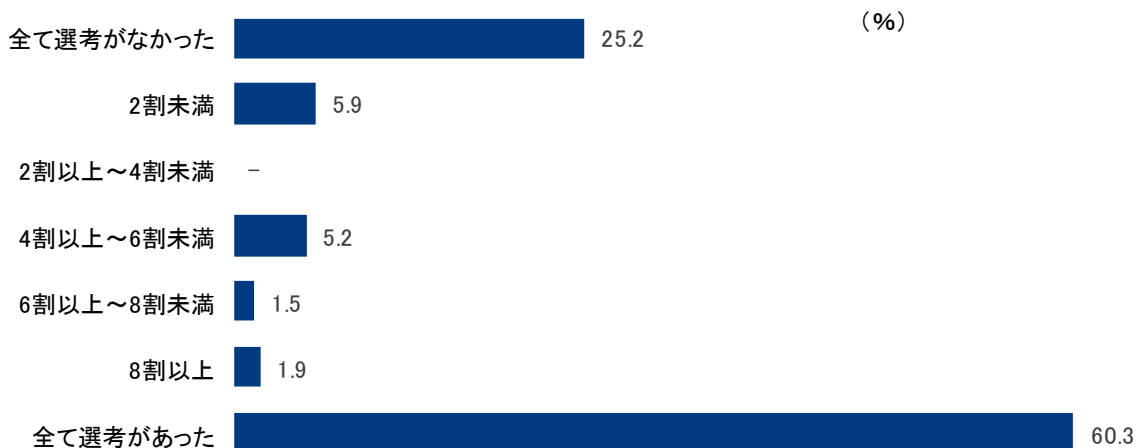
応募したインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムのうち、 プログラム参加に当たり選考があった割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／単一回答）



応募した5日以上のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムのうち、 プログラム参加に当たり選考があった割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
5日以上のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／単一回答）



※「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

回答が難しかった質問は「自己PR」「応募理由」「大学での学修内容」など

- ・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに応募した学生に、参加のための事前選考（書類や面接など）で、回答が難しかった質問内容について聴取すると、「自己分析ができていない状態での自己PR」や、「応募した業界や企業の知識がない状態での応募理由」というコメントが挙がった。
- ・また、「他社との違い」「大学での学修・研究内容の将来性や会社での生かし方」などについて、回答が難しかったという声も寄せられた。

プログラム参加のための事前選考（書類や面接など）で、回答が難しかった質問内容

大学生・大学院生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム応募者／自由回答）

コメント	大学種別	文理・性別	内容
自己PRや学生時代に取り組んだ事など。インターンに参加するためにこのようなものを準備する必要があると考えていなかったため、苦戦した。	大学生	理系男性	自己PR
動画で1分間の自己紹介やインターンシップでやってみたいことを話すのが難しかった。	大学院生	理系男性	自己PR
自己PRについてです。まだ自己分析ができていない状態だったため、アピールしたい部分が明確になっておらず、回答しづらかったです。	大学生	文系女性	自己PR
インターンシップに期待すること、インターンシップを経てどうなりたいか。インターンシップの概要がそこまで知らされていない状態で答えるのが難しかった。	大学生	文系女性	応募理由
志望理由を書くのが難しかった。理由は、インターンシップに応募した夏の時点では業界や企業についての知識が全くなく、とりあえず様々な業界を見てみようと考えて興味のない業界に応募したため。	大学生	文系女性	応募理由
参加したいインターンシップの部署とその理由。まだ企業研究が進んでいないのに考えるのが大変でした。	大学院生	理系女性	応募理由
大学の専攻科目の将来性について深掘りされた時が困りました。	大学生	文系女性	大学での学修内容
大学3年のため研究が始まっておらず、研究概要を聞かれた際に、興味のある学問を記載するだけでは内容が充実しなかったため苦労した。	大学生	理系女性	大学での学修内容
(就活を始めた際の時期のインターン用ESで)就活の軸が何か問う質問。選考を受ける予定の企業を10社記入するという内容。	大学生	文系女性	その他
同業種の他社インターンシップとの違いをどのように見ているか？	大学院生	理系男性	その他

プログラムに参加した学生のうち、参加後に企業との接点があった割合は89.0%

・インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した学生のうち、参加後に企業との接点があったと回答した割合は89.0%だった。1日以下のプログラムに絞って見ても、**81.2%**が接点があったと回答した。

・プログラムに参加した学生のうち、参加後に**参加者限定の選考案内があったと回答した割合は84.4%**だった。1日以下のプログラムに絞って見ても、**74.9%**が案内があったと回答した。

※接点とは、例えば選考案内や別イベントの案内、社員からの接触、定期的な情報提供などを指す

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した後に、 企業との接点があった割合・社数

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／数値回答）

	経験割合(%)	平均数(社)
プログラム全体	89.0	6.17
1日以下のプログラム	81.2	4.90

※平均社数の集計対象は、1社以上の企業と接点があった学生

インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した後に、 参加者限定の選考案内があった割合・社数

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／数値回答）

	経験割合(%)	平均数(社)
プログラム全体	84.4	4.77
1日以下のプログラム	74.9	4.09

※平均社数の集計対象は、1社以上の企業から参加者限定の選考案内があった学生

※「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラム」は、「オープン・カンパニー（企業が主催するイベント・説明会など）、キャリア教育（大学や企業による教育プログラムなど）、インターンシップ」である旨を明示して聴取している

(参考) キャリア形成支援に係る取り組みの4類型

	「インターンシップ」とは称さない		「インターンシップ」として実施	
類型	タイプ 1 オープン・カンパニー	タイプ 2 キャリア教育	タイプ 3 汎用的能力・専門活用型 インターンシップ ※1	タイプ 4(試行) 高度専門型インターンシップ
目的	個社や業界に関する情報提供・PR	働くことへの理解を深めるための教育	就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、企業にとっては学生の評価材料の取得	就業体験を通じて、学生にとっては実践力の向上、企業にとっては学生の評価材料の取得
対象	年次不問	年次不問	学部3・4年、修士1・2年、博士課程学生(大学正課を除く)	修士課程、博士課程学生 ※詳細は下段の「主に想定されるもの」参照
主に想定されるもの	企業・就職情報会社や大学キャリアセンターが主催するイベント・説明会	・大学等が主導する授業・産学協働プログラム(正課・正課外を問わない) ・企業がCSRとして実施するプログラム	企業単独、大学等が企業あるいは地域コンソーシアムと連携して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視したプログラム	・高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)(産学協議会で検討中) ・ジョブ型研究インターンシップ(自然科学分野の博士課程学生を対象に文科省・経団連が共同で試行中)
就業体験	なし	任意	必須 ①実施期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てる(就業体験要件) ②職場の社員が学生を指導し、学生に対しフィードバックを行う(指導要件)	必須
所要日数	超短期(単日)	授業・プログラムによって異なる	③汎用的能力活用型は5日間以上。専門活用型は2週間以上(実施期間要件)	・ジョブ型研究インターンシップ:長期(2か月以上) ・高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称):検討中
実施時期	学士・修士・博士課程の全期間。時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮	学士・修士・博士課程の全期間。時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮	④学業との両立の観点から、長期休暇期間(夏休み、冬休み、入試休み・春休み)(実施時期要件)。ただし、大学正課および博士課程は、長期休暇に限定されない	—
取得した学生情報の採用活動への活用	不可	不可	卒業・修了年次前年3月以降は広報活動に、卒業・修了年次6月以降は採用選考活動に使用可	卒業・修了年次前年3月以降は広報活動に、卒業・修了年次6月以降は採用選考活動に使用可

※1 タイプ3において、表中の①～④、並びに⑤情報開示要件(※2)の5つを満たしている場合、「インターンシップ」と称し、「産学協議会基準準拠マーク」を募集要項等に記載することができる。

※2 情報開示要件として、次の①～⑨に関する情報が募集要項などに記載されていることが求められる。

①プログラムの趣旨(目的)／②実施時期・期間、場所、募集人数、選抜方法、無給/有給等／③就業体験の内容(受け入れ職場に関する情報を含む)／④就業体験を行う際に必要な(求められる)能力／⑤インターンシップにおけるフィードバック／⑥採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得した学生情報を活用する旨(活用内容の記載は任意)／⑦当該年度のインターンシップ実施計画(時期・回数・規模等)／⑧インターンシップ実施に係る実績概要(過去2～3年程度)／⑨採用選考活動等の実績概要 ※企業による公表のみ

※産学協議会作成「何がかわるの? これからのインターンシップ」(https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/039_leaflet2.pdf) P7～8などを基に就職みらい研究所にて作成

※出所『就職白書2024』

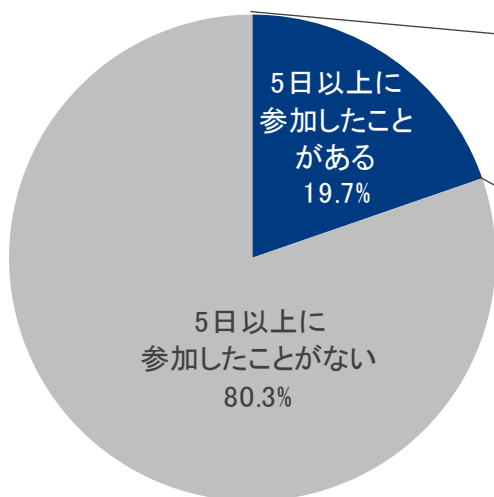
5日以上のプログラム参加者のうち、46.6%の学生がタイプ3のインターンシップに参加

・プログラム期間が5日以上のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加したことがある学生の割合は、19.7%だった。

・5日以上のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラムに参加した経験のある学生に、タイプ3の基準を示した上で、タイプ3の基準を満たしたインターンシップに参加したことがあるか聞いたところ、46.6%の学生が参加経験があった。一方、34.4%が「分からない」と回答した。

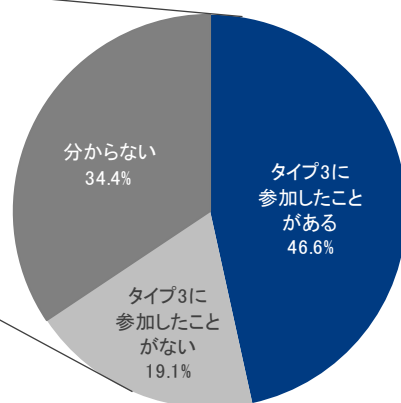
5日以上のプログラムの参加経験

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／単一回答）



タイプ3の基準を満たしたインターンシップの参加状況

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、5日以上のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／単一回答）



タイプ3の基準を満たしたインターンシップの参加状況（詳細）

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、5日以上のインターンシップ等のキャリア形成支援プログラム参加者／単一回答）

					(%)	参加・計
1社	2社	3社以上	参加したことがない	分からない		
	43.0	3.6	19.1	34.4		46.6

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと。詳細はP.11参照

仕事に対する適性や、今後身に付けるべき点を客観的に評価されたという声

- ・インターンシップ（タイプ3）に参加した学生に、参加したプログラムを通して得られたのフィードバック（※1）について聴取した。
- ・「就業するに当たり強みとなる部分と弱みとなる部分」や、「今後社員になってから学べば良いこと」などを客観的に評価されたという声が寄せられた。

参加したインターンシップ（タイプ3）で得られたフィードバック内容

大学生・大学院生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、
インターンシップ（タイプ3）参加者／自由回答）

コメント	大学種別	文理・性別
大学院で勉強した内容を用いて、ワークに取り組んでいた。議論を引っ張っていき、大変活躍されていた。	大学院生	文系男性
課題解決のためには目に見える情報(数字・お客様の発言)だけではなく目に見えない情報(今後を見通す力・お客様の潜在的ニーズ)を把握する必要があること。	大学生	文系女性
業務に関してできていることやできていないこと、社員になってから学べば良いことなどをフィードバック頂いた。	大学生	文系男性
とてもまじめな性格。毎日の挨拶や関係者への御礼をきちんとしていた。短期間で多くの成果物を提出していて良かった。	大学院生	理系男性
強みや、今後伸ばすべき点をフィードバックとしてもらった。	大学院生	理系男性
他大学生とのグループワークの際の状況から、コミュニケーション能力があると言われ、それを今後の就職活動でも活かしてほしいと言われた。	大学生	文系女性
自分の強みが主体性とリーダーシップであること。	大学生	文系女性
どのような場面でも最初に発言をしていた。その積極性を持ち続けてほしい。	大学生	文系男性
実際に仕事の一部を任せただく中で、どんなやり方が効率的か、効果的か等をアドバイスしていただきました。学生の主体性を大切にされている企業だったので、学ぶ姿勢を見せたり、積極的に質問したりする度に真摯に向き合ってくださいました。自身の長所も欠点も改善策も見えてきました。	大学生	文系女性
データ分析自体は良かったが、そこからもっと施策を考えられると良い。	大学生	文系男性
大学が用意した社会人基礎力に基づく評価シートに沿って、主体性や創造性、柔軟性などを5段階で評価された。	大学生	文系女性

※タイプ3は「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」のこと

※1「職場の社員が学生を指導し、学生に対しフィードバックを行う（指導要件）」はタイプ3の要件のうちの一つ。
詳細はP.11参照

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2025年卒：2024年3月18日時点

調査対象 | 2025年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2025』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生3,190人（内訳：大学生2,446人/大学院生744人）

調査期間 | 2024年3月18日～3月22日

集計対象 | 大学生 675人/大学院生 297人

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2025/>

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者＋志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」

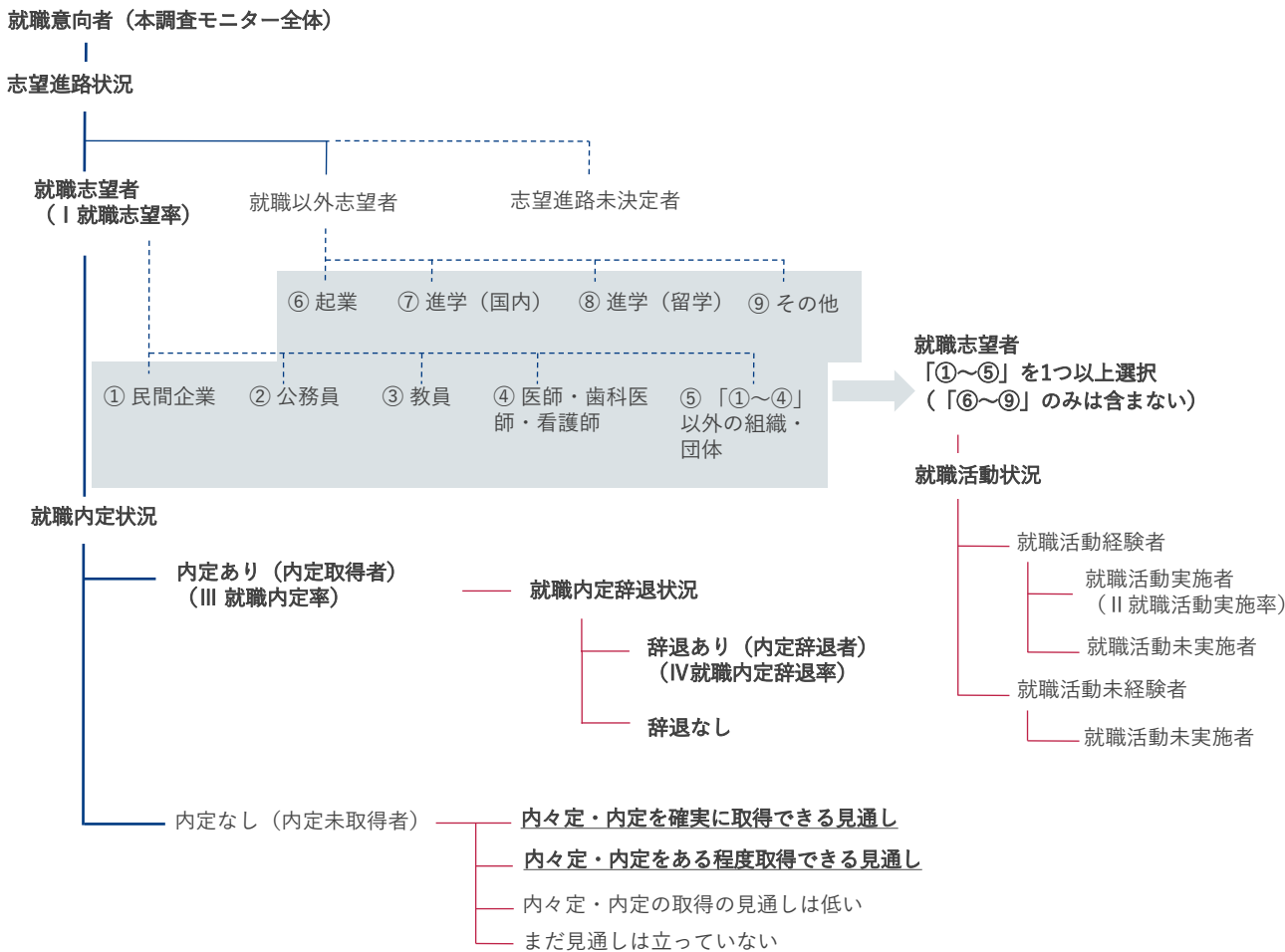
リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

- 就職意向者 = 当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
- 就職志望者 = 当月、就職を志望している者
- 就職活動実施者 = 当月、就職活動を実施している者 (※)
- 就職活動経験者 = 当月までに就職活動の経験がある者
- 就職内定取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
- 就職内定未取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
- 進路確定者 = 当月、進路が確定している者
進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
- 就職内定辞退者 = 当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

- 関東 = 東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
- 中部 = 静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
- 近畿 = 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
- その他地域 = 「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者